



Install manual

by Sparx Systems Japan

Enterprise Architect 日本語版 インストールマニュアル



1. はじめに

このインストールマニュアルは、Enterprise Architect 日本語版 バージョン 17.0/17.1 を Windows 環境にインストールするためのマニュアルです。

インストールには管理者権限が必要です。管理者権限を持つユーザー (Administrator など) でインストールしてください。

過去のバージョン・ビルドがインストールされている環境に新しいバージョン・ビルドをインストールする場合には、手順はこのドキュメントで示している内容と全く同じです。インストールの処理中に自動的に古いバージョン・ビルドをアンインストールし、その後バージョン 17.0/17.1 をインストールします。評価版や読み込み専用版 (Viewer) がインストールされている環境についても、同様にインストール時に評価版をアンインストールします。

なお、環境により、過去のバージョンのアンインストールが正しく行われなかったり、古いバージョンのファイルが残ったりする問題が発生するという報告がありました。このような状況の場合には、Windows のコントロールパネルから Enterprise Architect (製品版あるいは評価版) を一度アンインストール後、Enterprise Architect のインストールディレクトリに残されたファイルを全て削除し、その後に再度最新版をインストールしてください。

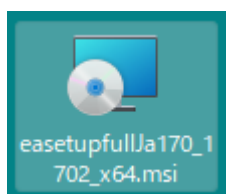
Linux あるいは macOS 環境で利用する場合には、Wine や CrossOver などのミドルウェアのインストールなどが必要です。下記ページにあるヘルプページへのリンクや動画をご覧ください。

https://www.sparxsystems.jp/products/EA/ea_sysreq.htm

2. インストールの手順

インストーラーを起動するためには、次のように行います。

- a. インターネットからダウンロードした場合



easetupfullJa*_****_***.msi** (**の部分は固定ではありません) ファイルが、ダウン

ロード時に指定したフォルダにあります。このファイルをダブルクリックしてください。

(なお、ファイル名はバージョン番号・ビルド番号・アーキテクチャ (32 ビット版か 64 ビット版か) によって異なります。バージョン 17.1 ビルド 1710・64 ビット版の場合には、easetupfullJa171_1710_x64.msi となります。)

- b. CD から起動する場合

Enterprise Architect の CD を CD ドライブに挿入してください。「マイコンピュータ」を開き、CD-ROM ドライブの中身を参照してください。CD には 64 ビット版のインストーラーのみが含まれます。64 ビット版のインストールで良い場合、

easetupfullJa_x64.msi (64 ビット版)をダブルクリックして起動してください。32 ビット版をインストールしたい場合には、ユーザー登録完了後、インストーラをダウンロードしてください。

最初に、以下のような画面が表示されます。

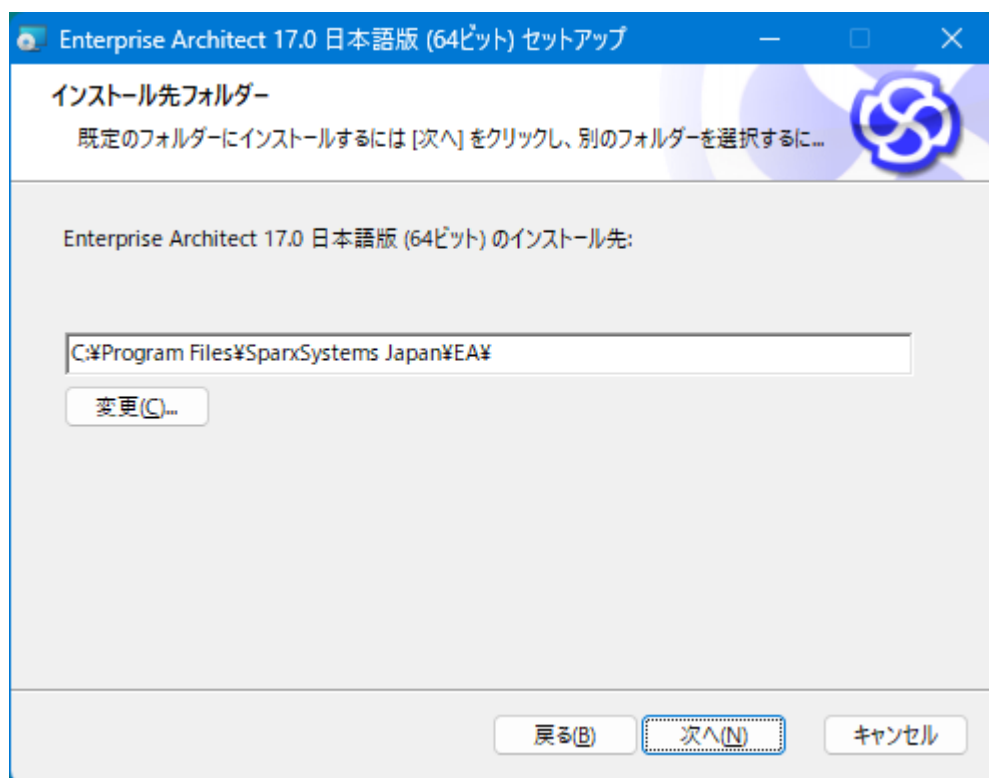


この画面では、「次へ」のボタンを押してください。次に、使用許諾契約の確認画面が表示されます。



内容を確認して問題がなく、同意できる場合には「使用許諾契約に同意します」にチェックを入れて、「次へ」ボタンを押してください。次のページが表示されます。使用許諾契約に同意できない場合には、インストールできません。

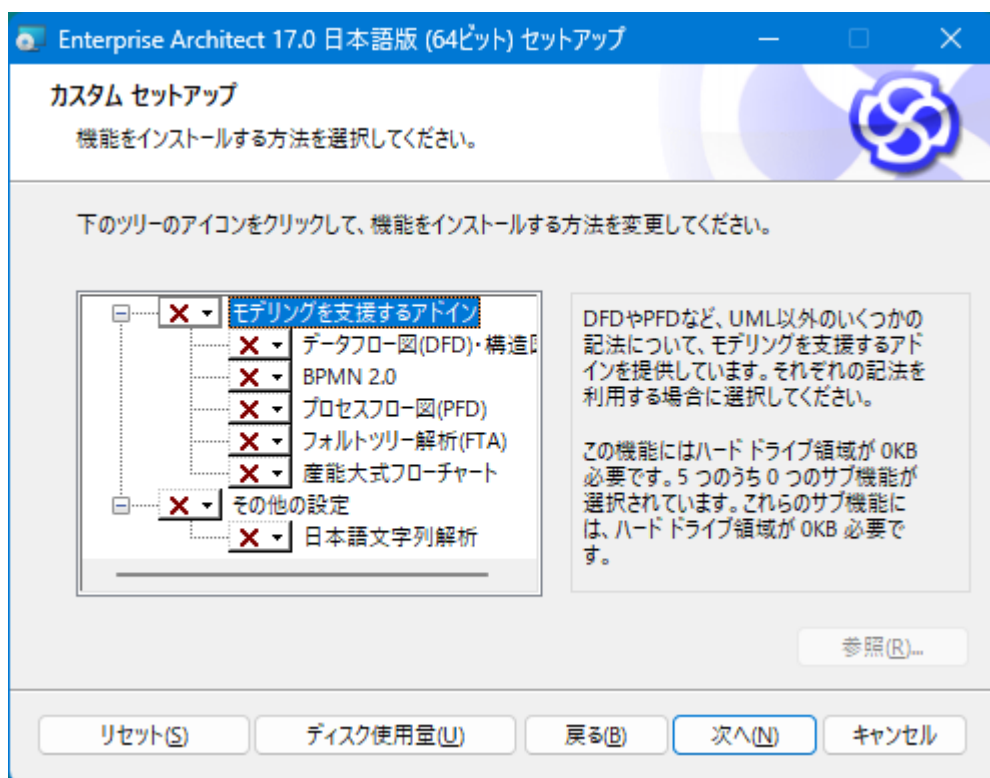
次に、インストールするフォルダを指定します。既定値では、Windows がインストールされているドライブ(通常は C ドライブ)の Program Files¥SparxSystems Japan¥EA にインストールされます。特別な事情がなければこの既定値のままとしてください。「次へ」ボタンを押すと、次の画面に進みます。



次の「追加アドインの選択」画面では、Enterprise Architect で利用できるアドインの利用の有無を指定します。必要に応じて、利用する図をサポートするアドインや、機能を追加するアドインを選択してください。

データフロー図(DFD)・BPMN 2.0・プロセスフロー図(PFD)・フォルトツリー解析(FTA)・産能大式フローチャートを利用する場合には、それぞれの項目を操作し、インストールするように設定してください。

USDM・GSN など、このインストーラーとは別にスパークスシステムズジャパンの Web サイトからダウンロードし、別途インストールする必要がある表記法もあります。



なお、ここで設定した内容は、インストール後に変更することも可能です。**アドインについては、アドインの数が増えると Enterprise Architect の起動・動作が遅くなりますので、必要なもののみをインストールするようにしてください。**不明な場合には既定の設定のままインストール作業を進め、アドインは必要になった段階でインストールすることをお勧めします。この内容を変更する手順については、このドキュメントの 6 章をご覧ください。

注意:

この画面で選択できる「日本語文字列解析」の機能を有効にすると、Enterprise Architect の起動速度が遅くなるほか、プロパティ画面の表示時などにノートの内容を毎回解析するため、全体的に動作速度が遅くなります。特に、ノートサブウィンドウを表示して利用する場合には、ツール内で何らかの操作をするたびに解析処理を実行するため、動作速度に大きく影響します。**用語集の機能を利用する場合以外は不要**ですので、必要がなければインストールしないことを強くお勧めします。

(この文章の意味がわからない場合や必要性が判断できない場合には、「日本語文字列解析」の機能はインストールしないでください。必要になった時点で、後からインストールできます。)

希望するアドインを選択したら、「次へ」ボタンを押すと、次の画面に進みます。

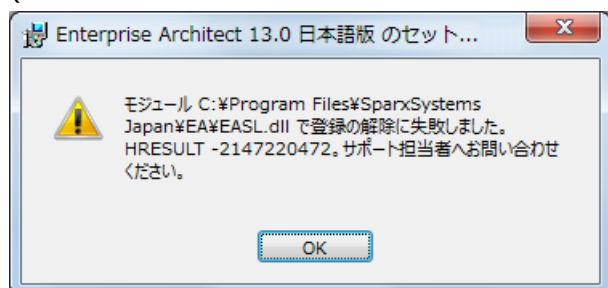


この画面は確認のための画面なので、そのまま「インストール」ボタンを押してください。管理者として実行するダイアログが表示され、インストール処理が始まります。インストールするマシンの性能や状況に応じて 1 分から数分程度かかります。評価版や過去のバージョンの製品版・英語版の Enterprise Architect がインストールされているマシンにインストールした場合には、このタイミングで評価版・過去のバージョン・英語版のアンインストールが実行されますので、時間がかかります。

インストールするマシンが、初めて Enterprise Architect バージョン 17.0 以降をインストールするマシンである場合には、インストールの完了後に Windows の再起動が必要です。再起動を促すメッセージが表示されますので、メッセージに従って Windows を再起動してください。

なお、インストール中の処理で、古いバージョンの Enterprise Architect のアンインストールを行っている際に以下のようなメッセージが表示される場合があります。

(「登録の解除に失敗しました」の内容は共通ですが、ファイル名やパスは異なる場合があります。)



このエラーは無視してください。このエラーは何度か表示されますが、すべて OK ボタンを押して閉じて下さい。このエラーが表示される場合でも正しくインストールされます。

3. 初期オプションの設定

Enterprise Architect のインストールを実行した Windows のログオンユーザーと、Enterprise Architect を利用するログオンユーザーが異なる場合には、Enterprise Architect の初期オプションの設定を推奨します。

Enterprise Architect のインストーラでは、インストールを実行した Windows ユーザーのレジストリに、いくつかの Enterprise Architect の初期オプションを設定しています。この設定は、他の Windows ユーザーには反映されていません。

一例として、企業での利用で Enterprise Architect を利用するユーザーが Windows の管理者権限を持たない場合には、管理者権限のあるユーザーで Enterprise Architect をインストール後、ユーザーを切り替えて Enterprise Architect を利用することになるかと思われます。このような場合には、Enterprise Architect の初期オプションはインストールした管理者権限を持つユーザーに対して設定され、利用するユーザーに対しては設定されていない状態になります。

このような場合には、初期オプションの設定を行ってください。具体的には、Enterprise Architect を利用するユーザーで Windows にログオン後、Windows のスタートメニューの「プログラム」(Windows11 では「すべてのアプリ」)の中の、Enterprise Architect グループにある「オプションの初期化」を実行してください。

この初期オプションの設定により、あらかじめ Enterprise Architect を利用しやすくなるようないくつかのユーザーオプションが適用された状態になります。

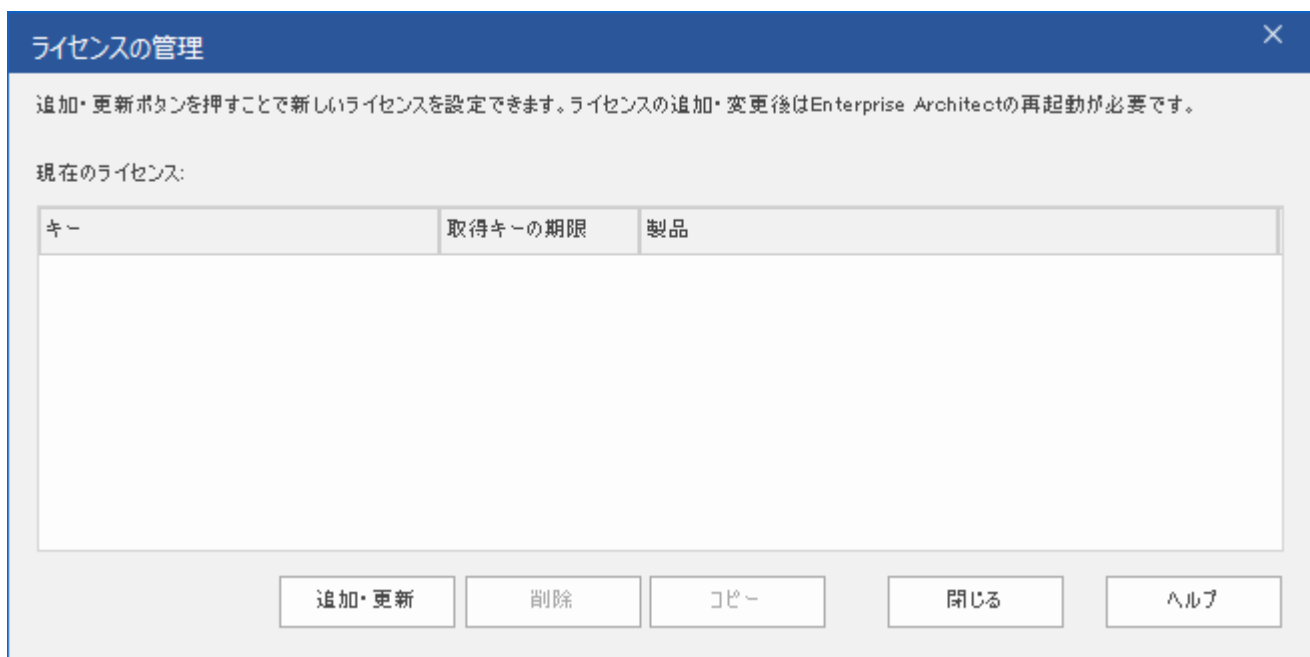
4. 初回起動の手順

インストールが完了したら、Windows のスタートメニューから起動することができます。「プログラム」(Windows11 では「すべてのアプリ」)の中の、Enterprise Architect グループを選択してください。Enterprise Architect という項目がありますので、これを選択すると Enterprise Architect が起動します。

あるいは、デスクトップ上の「Enterprise Architect」というアイコンをダブルクリックしても起動します。

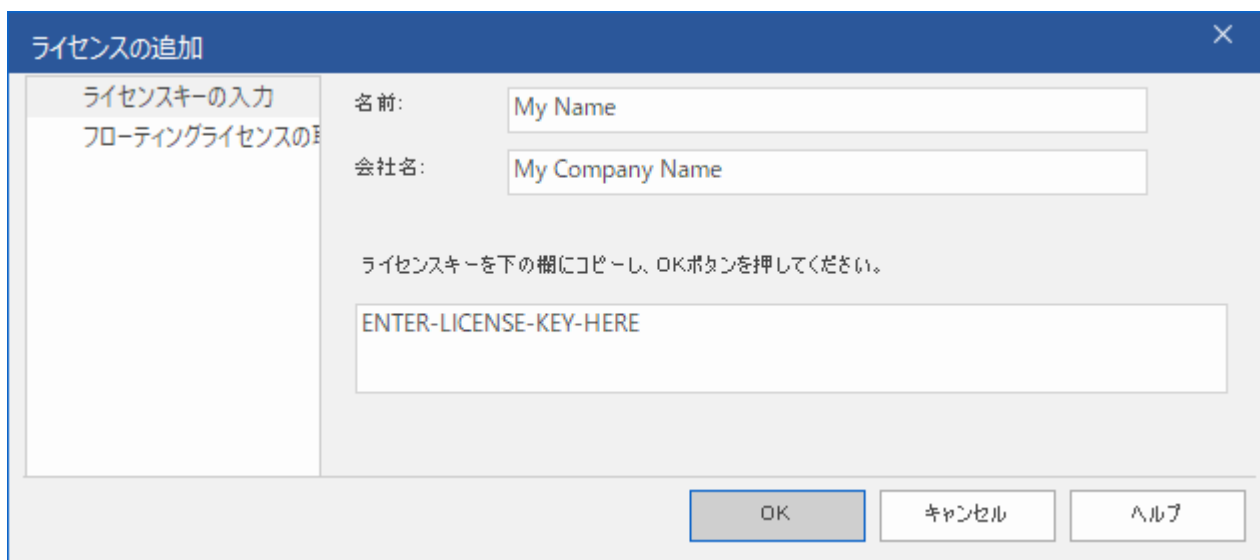
最初に起動したときには、次のような画面が表示されます。

(環境によっては、このドキュメントの画像と異なるフォントでダイアログの内容が表示される場合がありますが、ライセンスの適用後の利用には支障はありません。)



この画面での操作は、フローティングライセンスを利用するかどうかによって異なります。

スタンダードライセンスあるいはアカデミックライセンスをご利用の方は、ここで、「追加・更新」ボタンを押してから使用者の名前と会社名(学校名)・ライセンスキーを入力します。

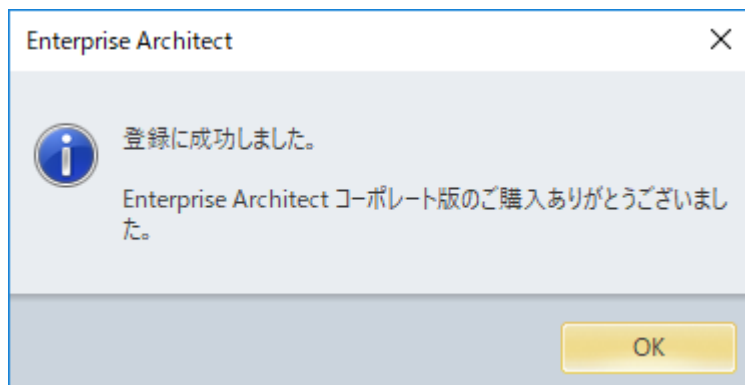


ライセンスキーを入力する欄には、ダイレクト購入の場合にはスパークスシステムズ ジャパンからメールで送付されたライセンスキーを入力してください。メールでライセンスキーを受け取っている場合には、コピーして貼り付けると間違いがなく入力できるでしょう。(フローティングライセンスのキーを、この欄に入力して利用することはできません。)

パッケージ購入の場合には、パッケージ内の用紙にライセンスキーが記載されています。間違いがないように転記して下さい。(パッケージのユーザー登録を完了すると、ライセンスキーの情報が電子メールで送付されます。この内容をコピーすると間違いなく

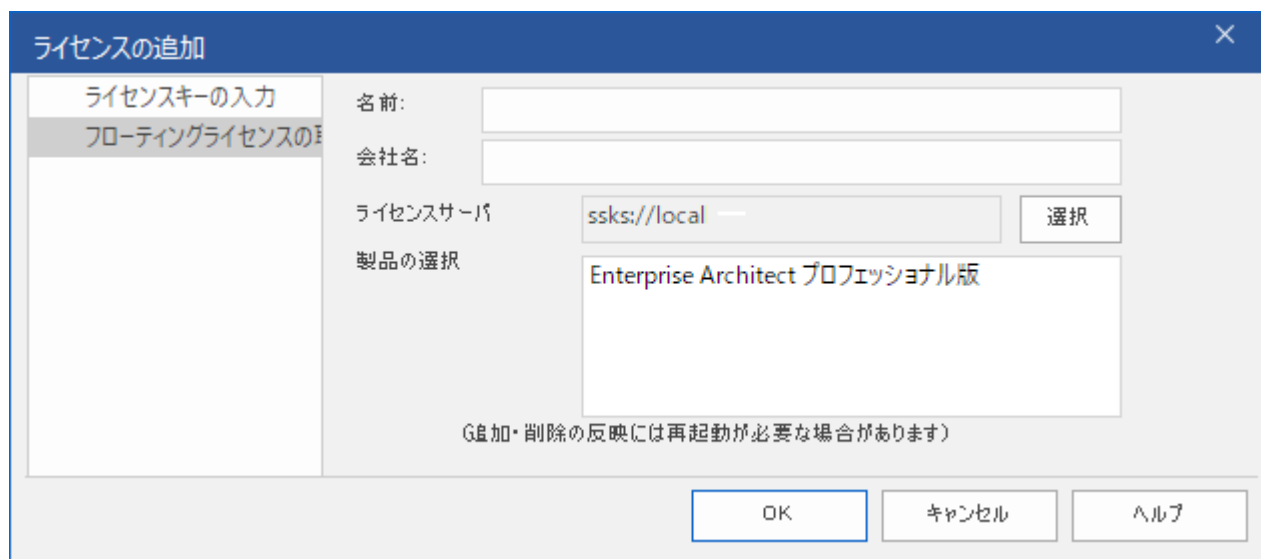
入力できます。)

正しい情報が入力されると、次のような画面が表示されます。これで登録は完了です。内容に誤りがある場合には、Enterprise Architect は起動せずに終了します。



フローティングライセンスの場合には、左側の一覧の選択肢の「フローティングライセンスの取得」を選択した上で、ライセンスサーバの情報を入力し、製品を選択してライセンスを取得してください。ライセンスサーバのインストールや設定がすすんでいない場合には、先にインストールと設定が必要です。この詳細は、会社内・組織内で利用している場合には、それぞれの会社・組織のライセンス管理者の方にご確認ください。

(会社・組織のライセンス管理者の方は別の PDF ファイルとして提供されている「フローティングライセンス マニュアル」をご覧ください。)



以上でライセンスの登録作業は完了です。

5. アクティベーション

Enterprise Architect の初回起動時には、ほとんどの場合において「アクティベーションコード」の入力が必要です。入力が必要な場合には、ライセンスの設定後に、下の画面が表示されます。

なお、この画面は、アクティベーションコードを設定するまでは毎回表示されます。また、過去に入力済みの場合でも、新しいバージョン・ビルドに更新した場合で過去に入力したアクティベーションコードの有効期間が過ぎている場合や、32ビット版 Enterprise Architect を利用して64ビット版 Enterprise Architect に変更した場合など、最新のアクティベーションコードの入力が必要になります。

アクティベーションコードを入力する画面が表示されず、Enterprise Architect がそのまま起動する場合には、アクティベーションコードの入力は不要です。**アクティベーションコードを入力する画面は、入力する必要がある場合のみ表示されます。**

アクティベーション

Enterprise Architectの利用には、適切なアクティベーションコードの入力と、下記記載内容および使用許諾契約への同意が必要です。

アクティベーションについて

この画面にある「上記の内容と使用許諾契約に同意します。」のチェックボックスにチェックを入れて利用を開始することにより、以下の内容について全て確認し、了承・同意したことになります。

- Enterprise Architect(以下"EA")およびその派生物の著作権は、すべてSparxSystems Pty Ltd および スパークスシステムズジャパン株式会社(以下"Sparx")が所有します。
- この文書における"バージョン"とは、15.0,15.1などの番号と、EAがビルドされた年および月 (例: 2020年1月) で区別できる、個々のEAのソフトウェアを意味します。

アクティベーションコード:

上記の内容と使用許諾契約に同意します。

[アクティベーションコードを取得 \(サポートIDとパスワードが必要\)](#)

「アクティベーションコード」の欄に、4文字のアクティベーションコードを入力してください。このアクティベーションコードが不明な場合には、画面左下の「アクティベーションコードを取得(サポート ID とパスワードが必要)」のリンクをクリックし、スパークスシステムズ ジャパンの Web サイトで取得してください。

アクティベーションコードを取得するためにはサポート ID とパスワードが必要となります。

- ✓ パッケージ版を購入した方は、パッケージのユーザー登録を行うことで、サポート ID とパスワードを入手できます。入手したサポート ID とパスワードを利用して、アクティベーションコードを入手できます。
- ✓ 企業で購入した場合には、サポート ID とパスワードはライセンス管理者のみが知っている場合があります。アクティベーションコードが不明な場合にはライセンス管理者に聞いてください。
(スパークスシステムズ ジャパンにご質問いただいても、アクティベーションコードをお伝えできません。)
- ✓ フローティングライセンスの利用時でライセンス管理者が設定している場合など、自動的に入力される場合もあります。

表示されている内容を確認し、同意できる場合には「上記の内容と使用許諾契約に同意します。」の項目にチェックを入れてから OK ボタンを押してください。

パッケージで購入した場合でパッケージ登録の手続き完了を待つ間など、5 回まではアクティベーションコードを入力せずに起動できます。起動する場合には、「上記の内容と使用許諾契約に同意します。」の項目にチェックを入れると「キャンセル」ボタンが「後で」ボタンに変わりますので、「後で」ボタンを押してください。

6. その他の情報

スパークスシステムズ ジャパンの Web サイトからは、基本的な操作手順を説明した「ゼロからはじめる Enterprise Architect」や、Enterprise Architect を利用した設計で利用する操作・機能を説明している「モデリング操作ガイド」もダウンロードできますので、ぜひご利用ください。

https://www.sparxsystems.jp/products/EA/ea_documents.htm

また、無料のセミナー「Enterprise Architect 入門セミナー」「Enterprise Architect 続・入門セミナー」では、Enterprise Architect の基本的な操作方法を実践的に学べます。サポートが有効な方は無料で参加できますので、ぜひご参加下さい。オンラインで毎月開催しています。入門セミナーは、1 ヶ月あたり 20 名～50 名の参加者がいらっしゃいます。

https://www.sparxsystems.jp/seminar/EAIIntroduction_online.htm

いくつかの操作・機能につきましては、動画でも内容を紹介しています。実際の動作を確認したい方は、動画デモもご利用ください。

https://www.sparxsystems.jp/products/EA/ea_demo.htm

7. インストール後のアドインの変更

インストール後に、アドインを追加・削除したい場合には、再度「追加アドインの選択」画面を表示させる必要があります。表示させる方法は、次のいずれかとなります。

- ・ インストールに利用したインストーラーを再度実行します。
- ・ Windows の「設定」→「アプリ」→「インストールされているアプリ」(あるいはコントロールパネルの「プログラムと機能」)を実行し、Enterprise Architect 日本語版の「変更」を実行します。

いずれの場合も、以下の画面が表示されますので、「変更」を選択して「次へ」を押してください。その後、「追加機能の選択」画面が再度表示され、アドインの設定内容を変更することができます。

